

国内の畜産物の需給動向

牛肉

6年5月の牛肉生産量、前年同月比3.6%増

生産量

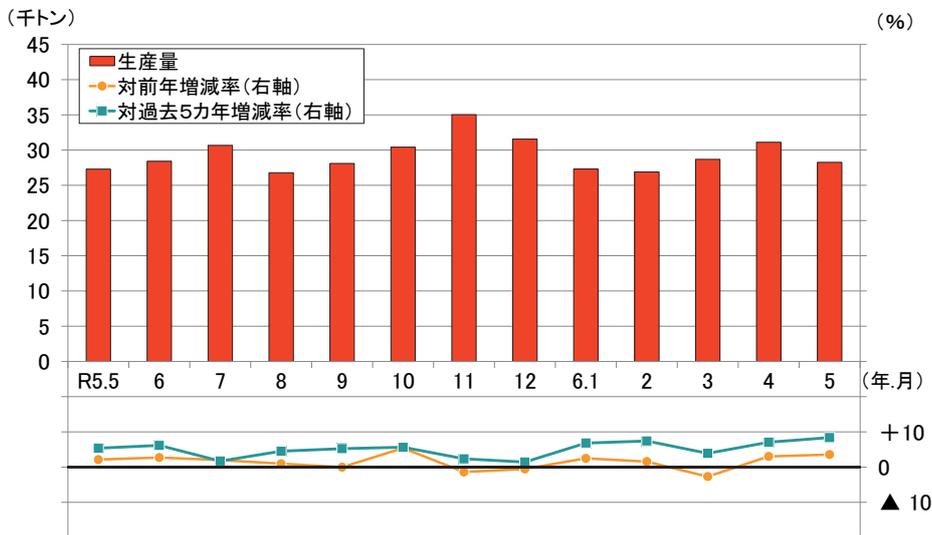
令和6年5月の牛肉生産量^(注1)は、2万8270トン（前年同月比3.6%増）と前年同月をやや上回った（図1）。品種別では、和牛は1万3949トン（同9.0%増）とかなりの程度、交雑種は7565トン（同0.6%増）とわずかに、いずれも前年同月を上回った

一方、乳用種は6476トン（同2.1%減）と前年同月をわずかに下回った。

なお、過去5カ年の5月の平均生産量との比較では、8.4%増とかなりの程度上回る結果となった。

（注1）生産量の合計にはその他の牛、子牛が含まれている。

図1 牛肉生産量の推移



資料：農林水産省「食肉流通統計」
注：部分肉ベース。

輸入量

5月の輸入量は、冷蔵品は、国内需要の低迷により低調に推移するも、前年同月の豪州産輸入量が少なかったことなどから、1万

7772トン（前年同月比10.4%増）と前年同月をかなりの程度上回った（図2）。冷凍品は、現地相場高の影響から米国産輸入量が減少した一方、豪州産およびニュージーランド産のうち主に加工用のひき材などに使用

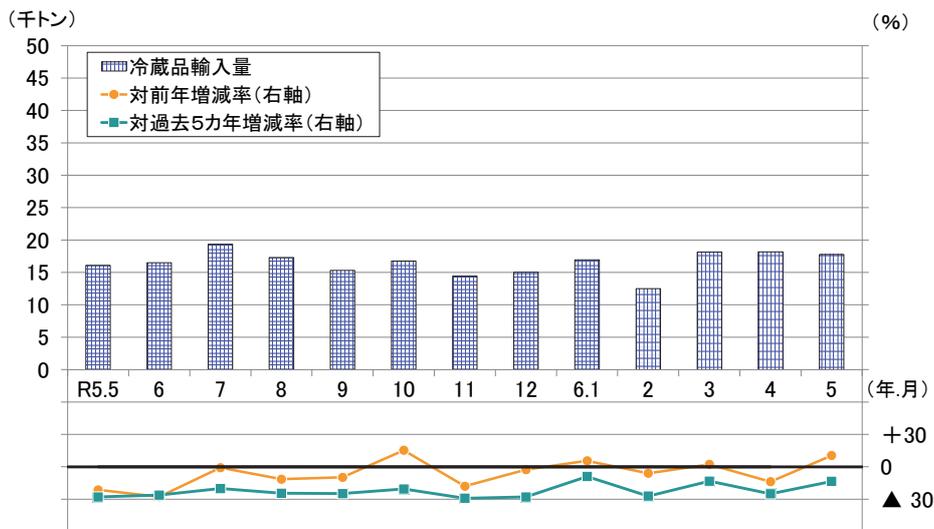
されるトリミングの輸入量が増加したことなどから、3万729トン（同1.4%増）と前年同月をわずかに上回った(図3)。この結果、輸入量^(注2)の合計でも4万8512トン（同4.4%増）と前年同月をやや上回った。

なお、過去5カ年の5月の平均輸入量との

比較では、冷蔵品は13.6%減とかなり大きく下回った一方、冷凍品は11.8%増とかなり大きく上回る結果となった。

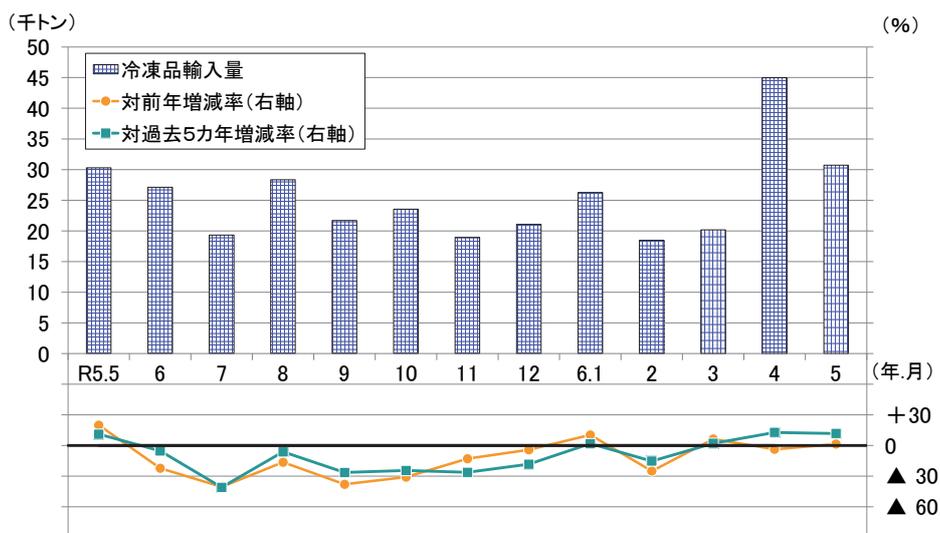
(注2) 輸入量の合計には煮沸肉、ほほ肉、頭肉が含まれている。

図2 冷蔵牛肉輸入量の推移



資料：財務省「貿易統計」
注：部分肉ベース。

図3 冷凍牛肉輸入量の推移



資料：財務省「貿易統計」
注：部分肉ベース。

家計消費量等

5月の牛肉の家計消費量(全国1人当たり)は166グラム(前年同月比7.3%減)と前年同月をかなりの程度下回った(総務省「家計調査」)。

なお、過去5カ年の5月の平均消費量との比較では、17.5%減と大幅に下回る結果となった。

5月の外食産業全体の売上高は、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の5類感染症移行から1年が経ち、人流の活発化により、前年より土曜日が1日少なかったものの、前年同月比6.3%増と前年同月をかなりの程度上回った(一般社団法人日本フードサービス協会「外食産業市場動向調査」)。このうち、食肉の取り扱いが多いとされる業態として、ハンバーガー店を含むファストフードの洋風は、連休明けの割引率の高い販促が奏功し、同4.0%増と前年同月をやや上回った。また、牛丼店を含むファストフードの

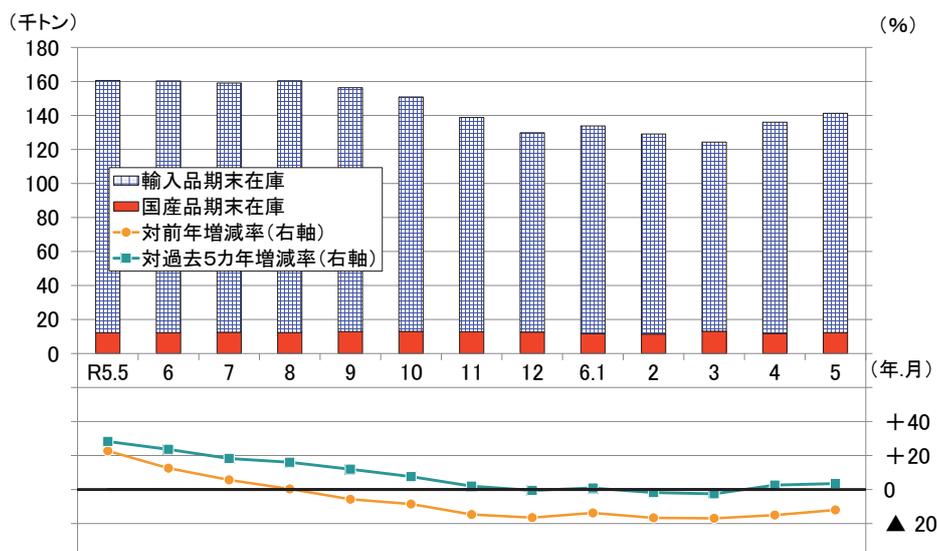
和風も、連休後に勢いが弱まるも、モバイルクーポンなどの効果により、同10.7%増と前年同月をかなりの程度上回った。ファミリーレストランの焼き肉は、値上げの影響で鈍っていた客足が戻り、高品質で値頃感のあるメニューが節約志向の消費者に好評で、同2.8%増と前年同月をわずかに上回った。

推定期末在庫・推定出回り量

5月の推定期末在庫は、14万1267トン(前年同月比12.0%減)と前年同月をかなり大きく下回った(図4)。このうち、輸入品は12万8998トン(同13.0%減)と前年同月をかなり大きく下回った。

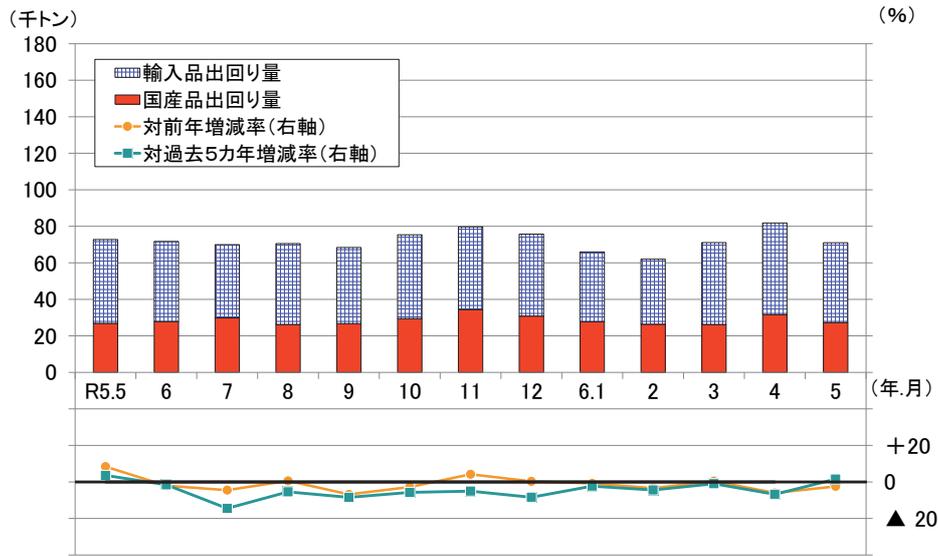
推定出回り量は、7万1007トン(同2.4%減)と前年同月をわずかに下回った(図5)。このうち、輸入品は4万3724トン(同4.8%減)と前年同月をやや下回った一方、国産品は2万7283トン(同1.6%増)と前年同月をわずかに上回った。

図4 牛肉期末在庫の推移



資料：農畜産業振興機構調べ

図5 牛肉出回り量の推移



資料：農畜産業振興機構調べ

(畜産振興部 丸吉 裕子)

豚 肉

6年5月の豚肉生産量、前年同月比0.1%増

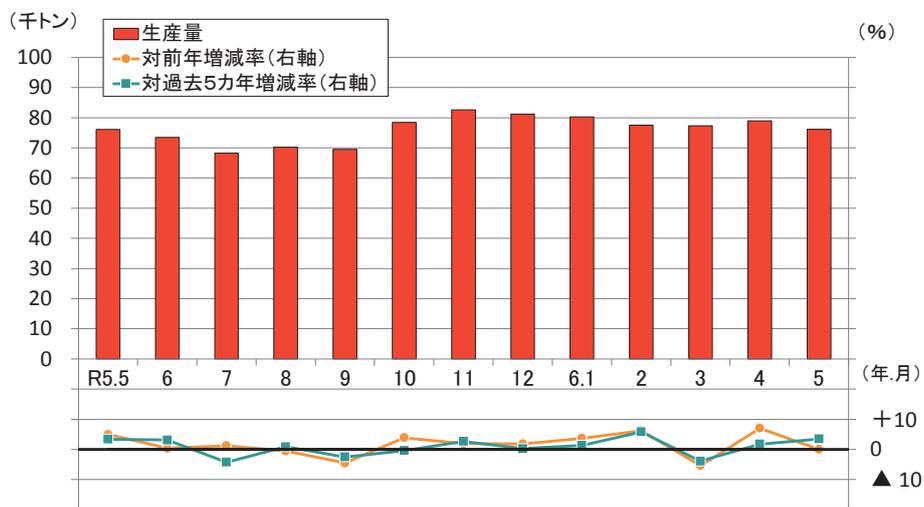
生産量

令和6年5月の豚肉生産量は、7万6183トン（前年同月比0.1%増）と前年同月並み

となった（図1）。

なお、過去5カ年の5月の平均生産量との比較では、3.5%増とやや上回る結果となった。

図1 豚肉生産量の推移



資料：農林水産省「食肉流通統計」
注：部分肉ベース。

輸入量

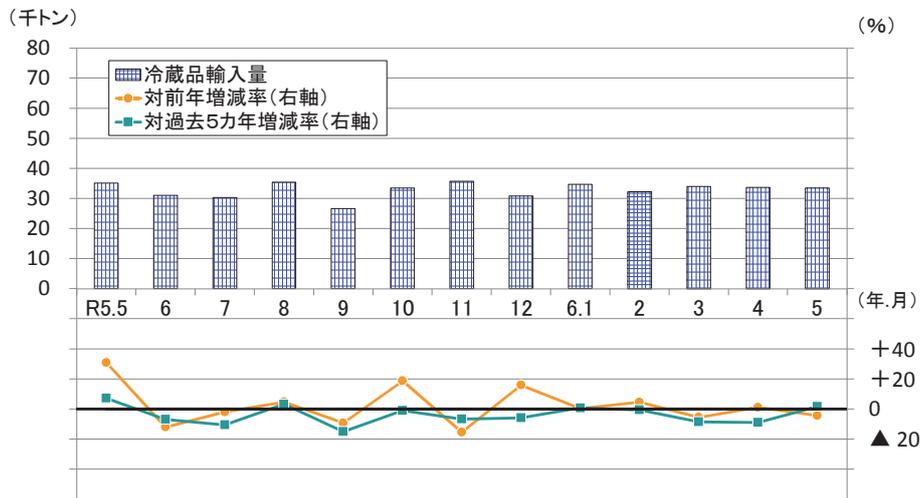
5月の輸入量は、冷蔵品は、現地相場高の影響から米国産輸入量が減少したことなどから、3万3539トン（前年同月比4.3%減）と前年同月をやや下回った（図2）。冷凍品は、現地相場高の影響からスペイン産輸入量が減少した一方、米国産およびカナダ産輸入量が増加したことなどから、6万539トン（同10.7%増）と前年同月をかなりの

程度上回った（図3）。この結果、輸入量^{（注）}の合計では9万4087トン（同4.9%増）と前年同月をやや上回った。

なお、過去5カ年の5月の平均輸入量との比較では、冷蔵品は1.8%増とわずかに、冷凍品は27.3%増と大幅に、いずれも上回る結果となった。

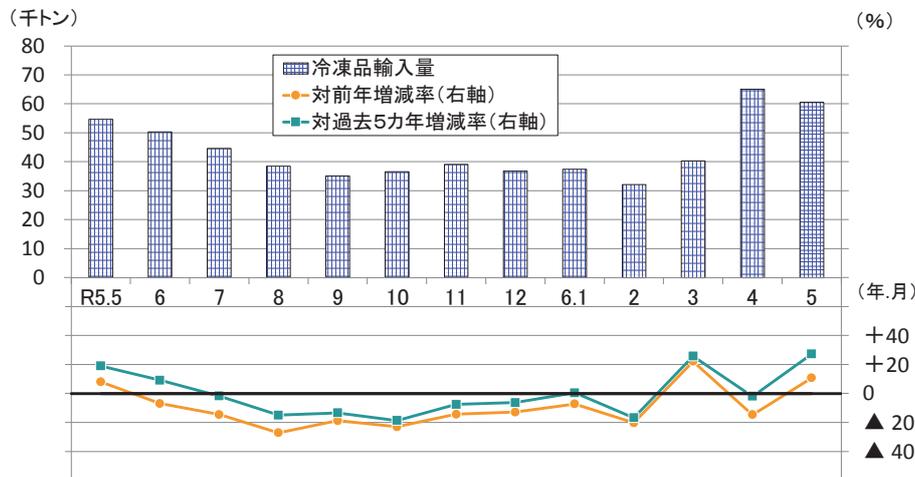
（注）輸入量の合計にはくず肉が含まれている。

図2 冷蔵豚肉輸入量の推移



資料：財務省「貿易統計」
注：部分肉ベース。

図3 冷凍豚肉輸入量の推移



資料：財務省「貿易統計」
注：部分肉ベース。

家計消費量

5月の豚肉の家計消費量(全国1人当たり)は、637グラム(前年同月比0.2%減)と前年同月並みとなった(総務省「家計調査」)。

なお、過去5カ年の5月の平均消費量との比較では、0.1%減と同水準という結果となった。

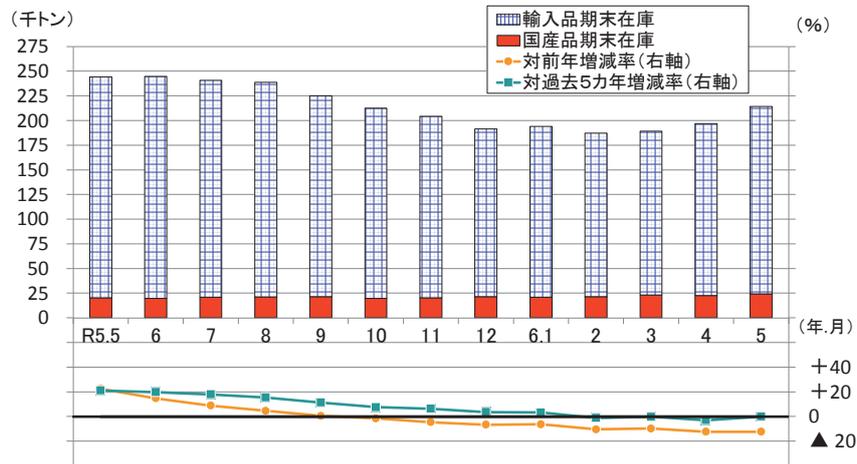
推定期末在庫・推定出回り量

5月の推定期末在庫は、21万4164トン

(前年同月比12.3%減)と前年同月をかなり大きく下回った(図4)。このうち、輸入品は、18万9925トン(同15.2%減)と前年同月をかなり大きく下回った。

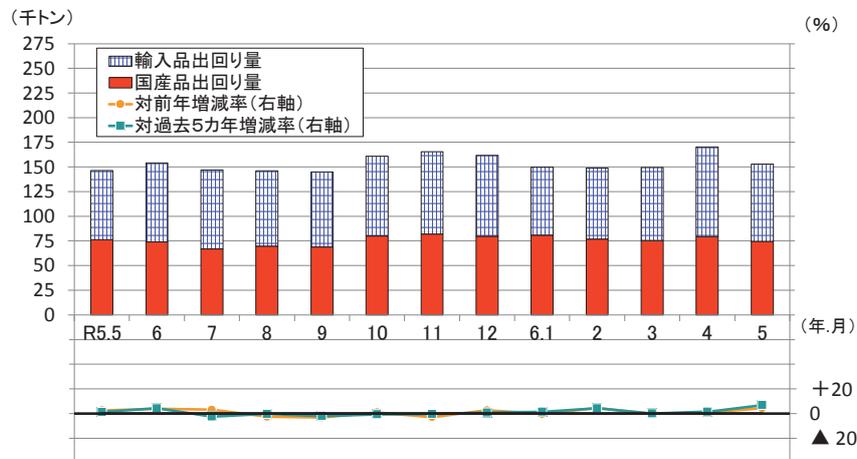
推定出回り量は、15万2741トン(同4.4%増)と前年同月をやや上回った(図5)。このうち、国産品は7万4520トン(同2.4%減)と前年同月をわずかに下回った一方、輸入品は7万8221トン(同11.9%増)と前年同月をかなり大きく上回った。

図4 豚肉期末在庫の推移



資料：農畜産業振興機構調べ

図5 豚肉出回り量の推移



資料：農畜産業振興機構調べ

(畜産振興部 小森 香穂)

鶏肉

6年5月の鶏肉生産量、前年同月比3.0%増

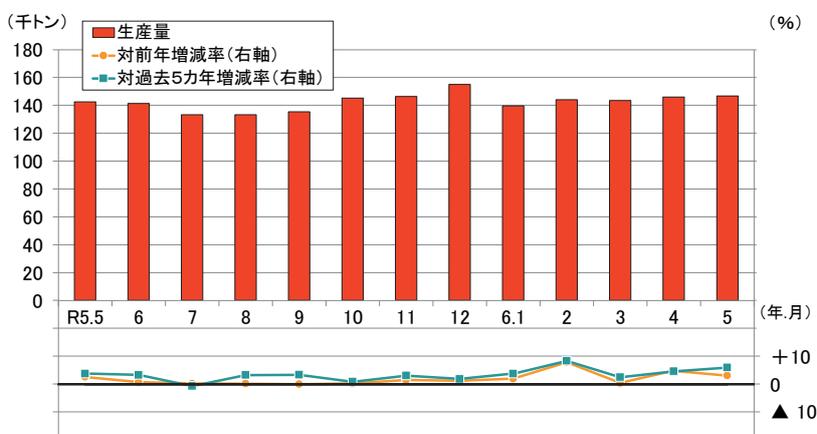
生産量

令和6年5月の鶏肉生産量は、14万6779トン（前年同月比3.0%増）と前年同月を

やや上回った（図1）。

なお、過去5カ年の5月の平均生産量との比較でも、6.0%増とかなりの程度上回る結果となった。

図1 鶏肉生産量の推移



資料：農畜産業振興機構調べ
注1：骨付き肉ベース。
注2：成鶏肉を含む。

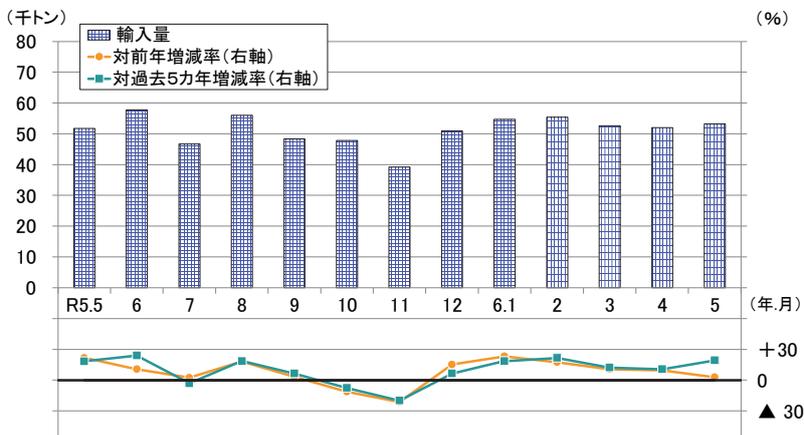
輸入量

5月の輸入量は、国内の節約志向を背景とした堅調な鶏肉需要により、ブラジル産、米国産の輸入量が増加したことなどから、5万

3240トン（前年同月比2.9%増）と前年同月をわずかに上回った（図2）。

なお、過去5カ年の5月の平均輸入量との比較でも、19.3%増と大幅に上回る結果となった。

図2 鶏肉輸入量の推移



資料：財務省「貿易統計」
注：鶏肉以外の家きん肉を含まない。

家計消費量

5月の鶏肉の家計消費量(全国1人当たり)は、545グラム(前年同月比6.4%増)と前年同月をかなりの程度上回った(総務省「家計調査」)。

なお、過去5カ年の5月の平均消費量との比較でも、4.9%増とやや上回る結果となった。

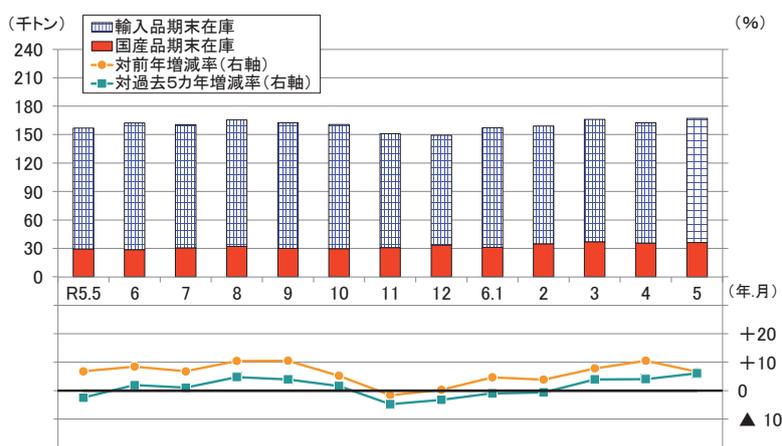
推定期末在庫・推定出回り量

5月の推定期末在庫は、16万7304トン

(前年同月比6.7%増)と前年同月をかなりの程度上回った(図3)。このうち、輸入品は13万1041トン(同2.8%増)と前年同月をわずかに上回った。

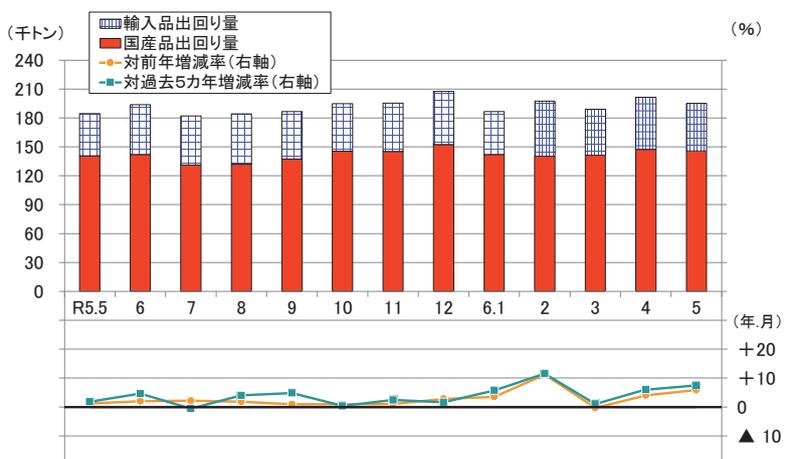
推定出回り量は、19万5278トン(同5.9%増)と前年同月をやや上回った(図4)。このうち、国産品は14万6022トン(同3.8%増)とやや、輸入品は4万9256トン(同12.7%増)とかなり大きく、いずれも前年同月を上回った。

図3 鶏肉期末在庫の推移



資料：農畜産業振興機構調べ

図4 鶏肉出回り量の推移



資料：農畜産業振興機構調べ

(畜産振興部 大西 未来)

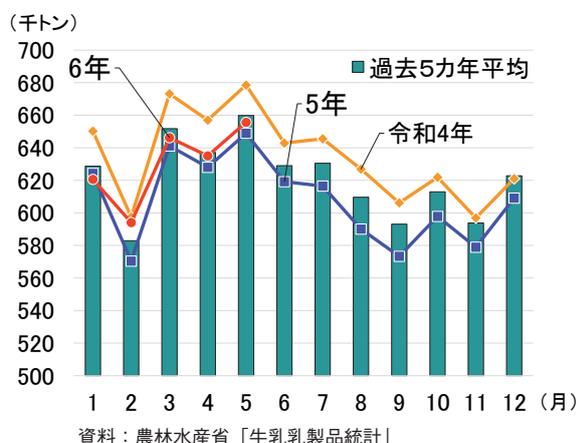
牛乳・乳製品

6年5月の全国の生乳生産量、前年同月を4カ月連続で上回る

全国の生乳生産量、前年同月比1.0%増

令和6年5月の生乳生産量は、65万5623トン（前年同月比1.0%増）となり、4カ月連続で前年同月を上回った（図1）。地域別に見ると、北海道は37万1186トン（同1.3%増）と前年同月を5カ月連続で上回り、都府県は28万4437トン（同0.6%増）と前年同月をわずかに上回った。

図1 生乳生産量の推移



5月の生乳処理量を用途別に見ると、牛乳等向けは32万9718トン（同1.5%減）、このうち、業務用向けについては2万3464トン（同2.9%減）と、いずれも前年同月をわずかに下回った。

乳製品向けは、32万1657トン（同3.6%増）と5カ月連続で前年同月を上回った。これを品目別に見ると、クリーム向けは、6万

382トン（同4.0%増）と前年同月をやや上回った。チーズ向けは、4万1179トン（同3.4%増）と前年同月をやや上回った。脱脂粉乳・バター等向けは、17万5228トン（同5.4%増）と前年同月をやや上回った（農畜産業振興機構「交付対象事業者別の販売生乳数量等」）。

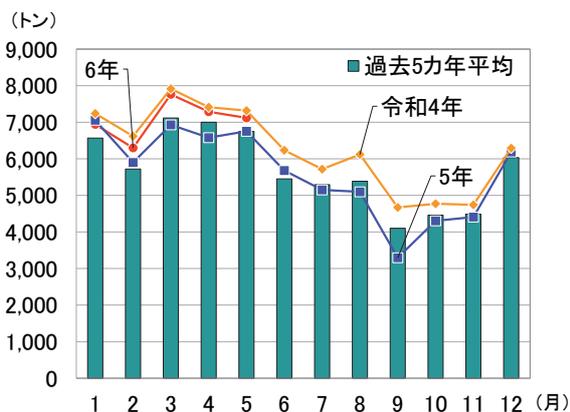
全国の牛乳生産量、前年同月比1.6%減

5月の牛乳等の生産量を見ると、飲用牛乳等のうち、牛乳は26万4795キロリットル（前年同月比1.6%減）と前年同月をわずかに下回った。成分調整牛乳は1万8615キロリットル（同9.5%減）と前年同月をかなりの程度下回り、加工乳は、1万2340キロリットル（同4.7%増）と前年同月をやや上回った。

5月のバター生産量、前年同月比5.4%増

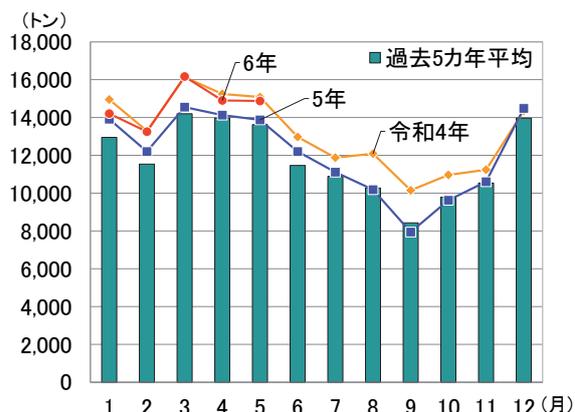
5月のバターの生産量は、7119トン（前年同月比5.4%増）と前年同月をやや上回った（図2）。出回り量は6461トン（同0.4%減）と前年同月をわずかに下回った（農畜産業振興機構調べ）。5月末の在庫量は、2万7935トン（同8.0%減）と前年同月をかなりの程度下回ったが、前月比では5カ月連続で上回っている（図3）。

図2 バターの生産量の推移



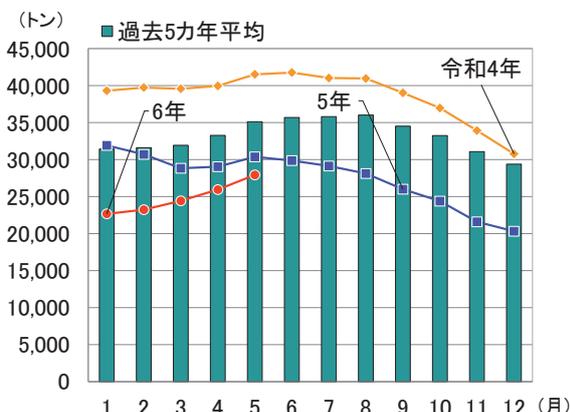
資料：農林水産省「牛乳乳製品統計」

図4 脱脂粉乳の生産量の推移



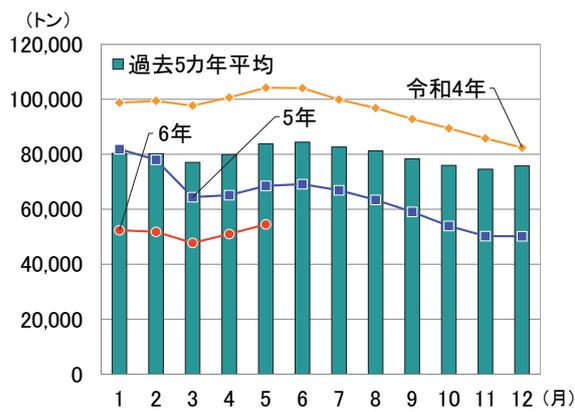
資料：農林水産省「牛乳乳製品統計」

図3 バターの在庫量の推移



資料：農林水産省「牛乳乳製品統計」

図5 脱脂粉乳の在庫量の推移



資料：農林水産省「牛乳乳製品統計」

5月末の脱脂粉乳在庫量、前年同月比20.5%減

5月の脱脂粉乳の生産量は、1万4874トン（前年同月比7.2%増）と前年同月をかなりの程度上回った（図4）。出回り量は1万1432トン（同7.3%増）と7カ月ぶりに前年同月を上回った（農畜産業振興機構調べ）。5月末の在庫量は、5万4489トン（同20.5%減）と前年同月を16カ月連続で下回った（図5）。

6年度のバターの輸入枠数量を見直し

令和6年6月26日、農林水産省は6年度の国家貿易による輸入枠について、本年も猛暑となった場合でもバターの安定供給を維持できるように、バター輸入予定数量約1万トンに加え、4000トンの輸入枠数量を増やして設定することとした（表）。これは、5年度に生乳生産量の実績が計画を下回った分に相当する。7月中に入札に付される4000トンの当機構への受渡期限は、10月末から11月中旬までとなっている。

表 令和6年度の輸入枠数量

	1月時点	6月時点
脱脂粉乳	750トン以内	750トン以内
ホエイ	4,500トン以内	112トン ^{注1}
バターオイル	185トン以内	137トン ^{注2}
バター	8000～約10,000トン	14,000トン ^台
合計	生乳換算13万7000トン	生乳換算18万7000トン

資料：機構成成

注1：令和6年6月20日をもって年度内入札終了。

注2：令和6年5月30日をもって年度内入札終了。

(酪農乳業部 高橋 沙織)

鶏卵

6年6月の鶏卵卸売価格、前年同月比42.7%安

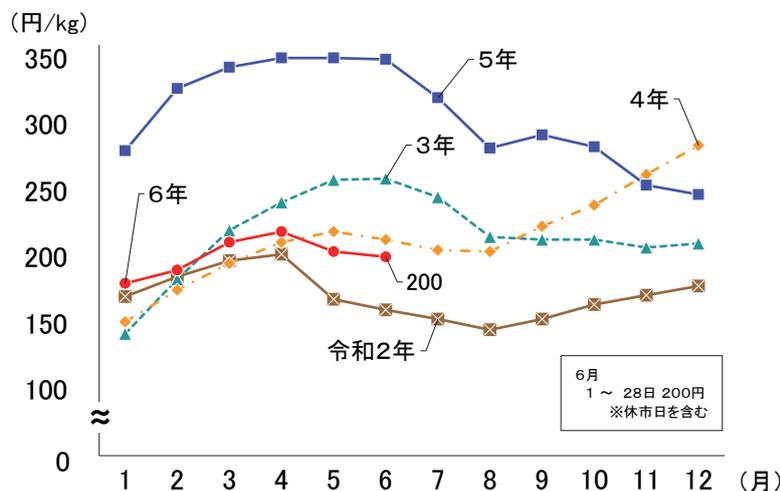
卸売価格

令和6年6月の鶏卵卸売価格（東京、M玉基準値）は、1キログラム当たり200円（前年同月差149円安、前年同月比42.7%安）と、高値で推移した前年同月を大幅に下回った（図）。なお、日ごとの推移を見ると、同価格は、月初から末日まで変動なく推移した。

5月13日に発動した成鶏更新・空舎延長事業^(注)は、6月25日の鶏卵の標準取引価格（日ごと）が同205円となり、安定基準価格（同202円）を上回ったことから、前日の24日をもって事業対象期間が終了となった。なお、同事業の発動は2月に次いで今年2回目であった。

供給面を見ると、同事業の発動により生産

図 鶏卵卸売価格（東京、M玉）の推移



資料：JA全農たまご株式会社「相場情報」

注：消費税を含まない。

羽数が減少傾向で推移する中、気温の上昇も相まって特に大玉サイズの生産量が減少している。一方、需要面を見ると、量販向けは、気温の上昇の他、梅雨時を迎え低需要期に入ることから低迷しており、加工・業務向けは、需要の回復の遅れが継続している状況にある。

(注) 鶏卵生産者経営安定対策事業の一つであり、一般社団法人日本養鶏協会が実施する事業。同事業は、鶏卵の標準取引価格(日ごと)が安定基準価格を下回った日の30日(10万羽未満の生産者は40日)前から標準取引価格(日ごと)が安定基準価格を上回る日の前日までに、更新のために成鶏を出荷し、その後60日以上空舎期間を設けた生産者に対して奨励金を交付するものである。

家計消費量

5月の鶏卵の家計消費量(全国1人当たり)は、937グラム(前年同月比12.5%増)と前年同月をかなり大きく上回った(総務省「家計調査」)。

なお、過去5カ年の5月の平均消費量との比較では、0.4%減とわずかに下回る結果となった。

(畜産振興部 大西 未来)